

# 貯木場における木材害虫の分散状況調査

山崎 昭・餅井田 輝  
山本 正宗・片岡 多聞

神戸植物防疫所大阪支所

輸入木材に寄生する害虫類が、殺虫処理以前に貯木場においてほかの材に移動していないかどうかを調査し、あわせて、外来の木材害虫の、日本の主要材種に対する寄生性の有無をしらべる目的で、アカマツを供試材として本調査を行なった。

本文にさきだち、供試材を寄贈していただいた大阪市立大学理学部附属植物園の庵原遼講師をはじめ職員のかたがた、害虫を同定していただいた林業試験場野淵 輝技官に厚く御礼申上げたい。また、日本木材検量所防疫部の職員のかたがたには供試材の運搬や設置場所の設営について大変御助力をいただいた。ここに厚く御礼申上げる。

## 調査方法

貯木場における木材害虫の分散調査に当っては、なるべく自然状件下で行なうように留意した。すなわち銅木誘殺法に準じ、できるだけ新鮮な材を一定期間貯木場の周辺に放置し、その間に供試材に寄生した害虫の種類と寄生程度について調査した。

供試材は昭和41年3月17日、大阪府北河内郡交野町私市大阪市立大学理学部附属植物園においてアカマツ12本を伐採し、これらの材を50本（長さ1.7m・最大元口29.5cm・最小末口7.5cm）に切断して用いた。なお植物園の所在地がマックイムシの被害区域にあるため、供試前に材にマックイムシが寄生している危険性があった

ので、これらの材を4月6・7日当所のくん蒸倉庫においてメチルプロマイドを1m<sup>3</sup>あたり48.5g使用して24時間くん蒸したのちに供試した。

設置場所は輸入木材を常時多量に貯木する大阪市住吉区内の1・2・3・4・5号貯木場内において、比較的風の影響が少なく、かつ供試材が安全に保管できると思われる場所を1貯木場当たり1カ所計5カ所選定して、そこに供試材を設置した（第1図参照）。



第1図 供試材配置

## 各設置場所における害虫の種類と寄生程度

| 供試材の設置場所 | 害虫の種類と寄生程度                    |                         |                            |                          |                       |
|----------|-------------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|-----------------------|
|          | <i>Shirahoshiro rufascens</i> | <i>Cryphalus fulvus</i> | <i>Xyleborus perforans</i> | <i>Xyleborus saxseni</i> | <i>Carposinus</i> sp. |
| 1号貯木場    | 卅                             | —                       | —                          | +                        | 卅                     |
| 2号貯木場    | —                             | —                       | —                          | —                        | —                     |
| 3号貯木場    | —                             | —                       | —                          | —                        | —                     |
| 4号貯木場    | —                             | —                       | —                          | —                        | —                     |
| 5号貯木場    | —                             | —                       | —                          | —                        | —                     |
| — 1~20 匹 | + 21~50 匹                     | 卅 51~70 匹               | 卅 71~100 匹                 |                          |                       |

供試材は材積ができるだけ均等になるように大径木・小径木を取りまぜ、1カ所あたり10本ずつ5カ所に配置した。また、供試材が直接地面に接しないように下に枕木を2本置き、その上に5本ずつ2段にならべ、材が散乱しないように各材を鋼線で連結し、乾燥防止のために上面をむしろで覆った。

4月16日供試材を設置し、3カ月間放置したのち、7月16日に回収した。

寄生害虫の調査は7月20・21日当所において各設置場所ごとに供試材を剥皮し、ピンホールについては材を掘って、害虫の種類と寄生程度を調査した。

### 調査結果

供試材には *Shirahoshizo rufascens* ROELOFS ニセマツノシラホシゾウムシ、*Cryphalus fulvus* NIJIMA キイロコキイムシ、*Xyleborus saxeseni* (RATZEURG) サクセスキイムシ、*Xyleborus perforans* (WOLLASTON) フィリピンザイノキムシ、*Carposinus* sp. の5種の寄生が認められた。このうち *Xyleborus perforans* と *Carposinus* sp. はわが国には未分布といわれている種類で、*Shirahoshizo rufascens* と *Cryphalus fulvus* はいわゆるマツクイムシとして有名な種類である。また、*Xyleborus saxeseni* はわが国をはじめ北米・ヨーロッパ・シベリヤ・コーカサスと世界各地に広く分布し、きわめて雑食性で、衰弱木や新しい伐倒木に寄生し、工芸的に有害な種類である。

供試材に寄生した害虫の種類と寄生状況は別表のとおりである。

### 考 察

1. 供試材に寄生した害虫類は、貯木場およびその周辺に定着しているものが寄生したものか、殺虫処理前の輸入材あるいは同一貯木場内に保管されている内地材から分散して寄生したものか不明であるが、周辺には相当数の木材害虫が分散活動しており、またマツクイムシ類などが貯木場・木材市場など木材の集散地を媒体として方々に分散しているうたがいがも持たれる。

2. わが国には未分布といわれている *Xyleborus perforans*、*Carposinus* sp. が寄生していたことから、外来の木材害虫のうちには、わが国の主要材種であるアカマツに寄生性のある害虫が含まれていることがわかった。なお供試材における *Carposinus* sp. の寄生状況や、インドネシアから輸入されるメルクシマツにおける *Xyleborus perforans* の寄生状況からみて、この両種がわが国に定着した場合松材の重要な害虫となるおそれも持たれる。

3. 供試材に寄生した害虫類の発生源がどこにあるかを調査し、その結果により輸入材の消毒時期・樹皮付材の検疫方法・さらには輸入材を貯木する貯木場・消毒場所の指定など、今後の木材検疫の方法を再検討する必要がある。